

黄ばみの悩みを完全解決する

「ヘッドライトクリーン&プロテクト」は、市販品とどう違うのか

街中を走る半分近くの車が、ヘッドライトの黄ばみなど何らかの問題を抱えています。その問題を解決するメニューとして「ヘッドライトクリーン&プロテクト」は、多くのユーザーに大変喜ばれています。ヘッドライトの黄ばみやくもりを、ユーザー自身がドライブショップやDIYでメンテナンスをする場合も多いですが、その場合はキレイになったけど直ぐにまた元通りになってしまうことがほとんどであるため、プロに依頼してキレイにしようと考えている方も増えています。今回は、ヘッドライトの構造と「ヘッドライトクリーン&プロテクト」の仕組みを紹介します。



ヘッドライトの構造と黄ばみの原因

現在のヘッドライトの材質には「ポリカーボネート」という樹脂が使われています。理由として①衝撃に強い ②透明度が高い ③ガラス製に比べ軽い ④造型がしやすいなどが挙げられます。

しかし樹脂は劣化しやすいため、その上にレンズ表面に耐候塗料としてハードコートが塗装されています。一般的にヘッドライトのハードコート層は膜厚が5~10ミクロン程度で、塗膜の表面硬度は3H~4H程度です。最大の特長は、ヘッドライト専用コートとして紫外線に対する耐候性が高いこと。国産車の場合、屋外保管下で通常3~5年程は外的要因に影響を受けず、被膜を美しい状態のまま保つことができます。

しかし5年を越えてくると、ハードコートが「紫外線」や「傷」、「熱」により劣化を起こし、変色や傷の隙間に汚れが入り込み、黄ばんだ状態になってしまうのです。

市販の黄ばみ取りは、紫外線をカットできないため、黄ばみが戻る

市販の黄ばみ取りは、劣化したハードコートや凹凸になったポリカーボネートを平らに削り取り切れない上に、保護する被膜が薄く、紫外線を透過してしまうため、すぐに黄ばみやくもりが戻ってしまいます。

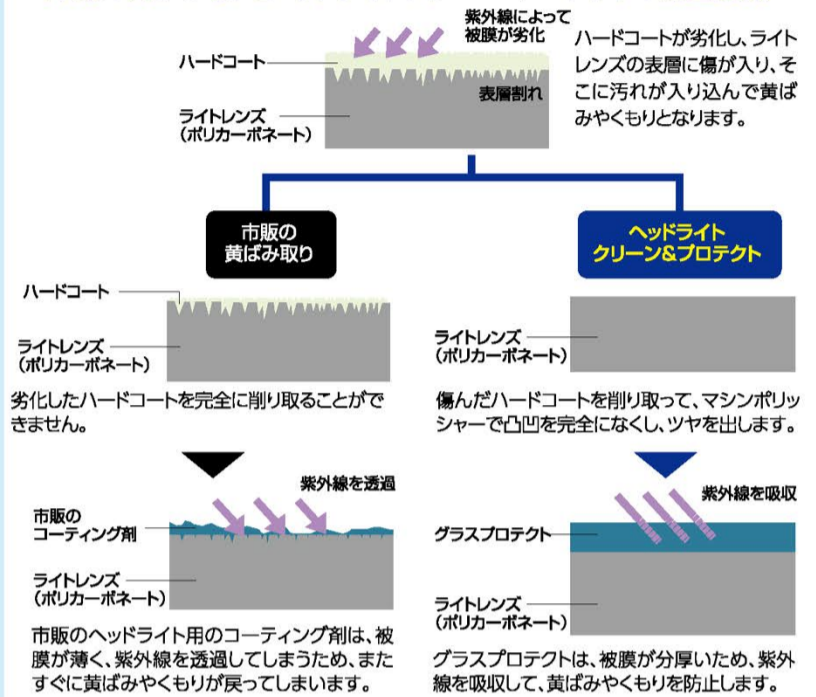
ヘッドライトクリーン&プロテクトは、分厚い被膜が紫外線を吸収し、黄ばみを防ぐ

「ヘッドライトクリーン&プロテクト」は、まず劣化してしまったハードコートを完全に削り取り、ポリカーボネートの表面を整えることにより黄ばみ等を根本的に取り除きます。

しかし、そのままではまた黄ばみが再発しやすくなるため、ガラスプロテクト（ガラス系コーティング剤）で保護します。

ガラスプロテクトは被膜が「分厚い」ため、紫外線を吸収して光をカットしてくれます。このことにより高い耐久力を保持し、黄ばみ防止になるのです。

《市販の黄ばみ取りとヘッドライトクリーン&プロテクトの構造比較》



リピートにつながるサイドメニューのお引渡し

ボディ以外でお客様からご要望が多いフッ素ガラスコーティングやホイールコーティングなどのサイドメニューのお引渡しについて岐菱商事(株)大垣給油所様を取材しました。



1 まず仕上がりを一緒に確認してもらう

品質が一番大切。まずはキチンとキレイにして仕上がりを確認していただきます。



例) 「今日はフッ素ガラスコーティングを施工させていただきました。」
「仕上がりのご確認をお願いします！」

2 「ぜひ楽しみにしてください」と自信を伝える

お客様が仕上がりに満足されたかを確認します。ここで喜んでいただくことが一番大切。お客様へ提供している商品の自信は、ここから生まれてくるようです。



例) 「気持ちよく水がはじきますので楽しみにしてください！」
「これで雨の日の視界がとても良くなります。」

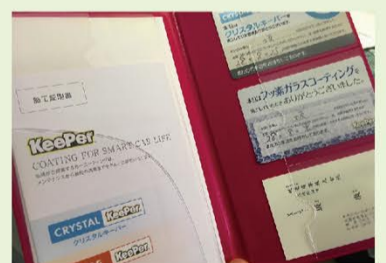
3 施工カードを使い、繰り返すことでずっとキレイが続くことをお伝えする(次回施工の目安時期をお伝えする)

ここで、効果が続く期間をしっかりとお伝えします。お客様は、今回だけのキレイさではなく、どうしたらずっとキレイが続くのかを知りたいと思っていますようです。

例) 「フッ素ガラスコーティングは、3ヶ月から半年ほど持続します。」

「繰り返し施工することで、ずっとキレイな状態が持続します。」

「こちらのカードに目安の日付を書いておりますので、参考にしてください。」



4 次回ご来店の際、お客様に状態を聴く

お客様からは「良かったからまたやってよ」などリピート施工につながる事が多くあります。洗車と一緒に施工される方が多く、効果を気に入っていただいているので「もうそろそろ、やっておいた方がいいよね?」と一度施工された方は定期的に施工につながるようです。

例) 「フッ素コーティングいかがでしたか？」

「そろそろ施工の時期が近付いてきましたが、窓ガラス見にくくなってはいませんか？」
(決してお客様に売り込まない、状態を聴く)



売込むのではなく、施工されたお客様が効果に満足することでリピートに繋がっていくそうです。また、リピートされたお客様にその後のことをお聞きすることで、車の状態と一緒に考えていくことができます。